知的障害特別支援学校高等部外国語科における、主体的なコミュニケーション態度の育成

ー聞き取った内容や表現の方法が分かり、自信を持ってコミュニケーションがとれる学習活動の工夫ー

特別研修員　特別支援教育　加藤達也（特別支援学校教諭）

研究の概要

目指す生徒像　自信を持って、主体的にコミュニケーションをとろうとする生徒

手立て①　聞き取った内容が分かる学習活動の工夫

○視覚教材による会話場面の提示（イラストやスキット）
- どんな会話場面なのかが分かる

○個別のヒントカードの利用
- 個々の聞き取りの苦手さに応じた支援
  例）聞いた音と英文が結びつくよう、英文に振り仮名を振る

相互作用

手立て②　表現の方法が分かる学習活動の工夫

○多感覚を利用した表現練習（チャンツ）
- テンポに合わせて表現することで、表現方法の定着を図る

○動作化を取り入れた表現練習
- 英語で表現しながら動作化することで、表現方法と表現内容の一致を図る

障害特性

苦手さ・困難さの背景

- *音声や文字だけの情報だと理解が難しい・・・「イメージが湧かない。何について考えれば良いの？」*
- *会話の文脈がつかみにくい・・・「今、何について答えれば良いのかな？」*
- *記憶が断片的で定着しにくい・・・「どんなふうに表現するのだったかな？勉強したはずなのに…」*

生徒の実態
- 英語を聞き取ることが苦手
- 英語で表現することが苦手

授業実践

単元名　「場所を尋ねよう」 “Where is the chocolate?” “On the desk.”

英語で何を聞かれているのか分かった！　質問に英語で答えられた！ 英語で話してみたい！

手立て①　聞き取った内容が分かる学習活動の工夫

○イラストやスキットによる会話場面の提示

- 教師が会話場面の寸劇を行う。
- こんなとき、みんななら何て言う？
- そう、捜し物をしている場面での会話を勉強します。

なるほど、ものを捜すときの会話を勉強するんだな。日本語なら「どこにあるの」って聞くよな。

○個別のヒントカードの利用

一人一人の実態に応じて単語や文の発音をカタカナで示したり、難しい表現をイラストで示したりしたもの。

ヒントカードを見たら、今聞いた英語が何て言っているのか分かった。

相互作用

手立て②　表現の方法が分かる学習活動の工夫

○チャンツによる表現練習

100 BPM（100拍／1分）程度のテンポと軽快なリズムに合わせ、新出単語や表現の発音練習を行う。

リズムに合わせて練習すると、覚えやすいな！

○動作化を取り入れた表現練習

“On the desk.” 発音しながら置いてみよう。

なるほど、“On the desk.” は、机の上のことなんだな。

成　果

- イラストなどで視覚的に示すことで、どんな場面での会話なのかを理解し、自信を持って英語でコミュニケーションを行えるようになった。
- 個別のヒントカードにある振り仮名付きの英文を頼りに表現を聞き取り答えることができた。また、表現する際の手掛かりにもなった。
- チャンツを取り入れることで、発音をする機会が増えるとともに、声が小さくなりがちな生徒も大きな声で発音できるようになった。
- アンケートの結果から（対象16名）「英語を聞くことは？」・・・「とても得意・得意」7人→10人に増加
  「英語を話すことは？」・・・「とても得意・得意」8人→13人に増加

課　題

- 動作化を取り入れて表現内容を理解するためには、数回の取組では難しく、繰り返し取り組むことが必要である。
- 場所や方向などを表す表現は、英語による表現以前に、基になる抽象的な概念理解を図るような支援を併せて行うことが必要である。
- クラスの実態に応じて学習する表現や単語の数を変えるようにするだけでなく、一人一人の実態に応じた手立てを個別のヒントカード以外でも準備することが必要である。（チャンツにおけるテンポの設定、個別練習場面の設定、TTの工夫など。）